

豊かな
自然環境
の形成

藻場・干潟の保全

藻場を守る



アマモに産み付けられた
アオリイカの卵

漁村の人々は、沿岸域の環境を守ることの大切さを切実に感じています。

干潟を守る



ヤマトオサガニ

種まきによる藻場づくり

岡山県日生町漁協

日生町漁協では、約20年前からアマモ場の再生の取り組んでいます。藻場から採取した花枝と種子を海水中で保存、培養し、船上から適地に播種する方法によって再生に成功しています。



種子を集めるためのアマモ花枝の採取



集めた種を適地に播く作業

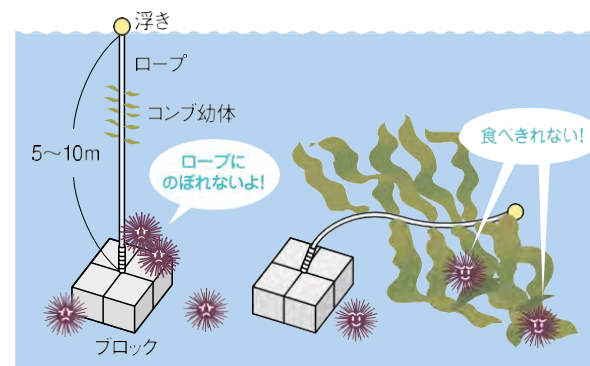
種苗による藻場づくり

青森県尻屋漁協



復活した尻屋崎沖のコンブ場

尻屋漁協では、過去に北海道駒ヶ岳の噴火による火山灰で、コンブ場が壊滅的な打撃を受けました。図のようなブロックを投入し、コンブ場を復活させ、その維持に努めています。



コンブの幼体をウニの食害から守ります

食害防止による藻場の再生

長崎県小佐々町漁協

藻場の再生には、まず核となる藻場をつくるのが有効です。その核となる藻場の周囲にネットを張り、魚やウニの食害から守っています。



魚の食害を防ぐため、藻場の周囲を網で囲う

青森県佐井村漁協

「磯焼け」の原因のひとつに挙げられるのがウニなど藻食動物による食害です。佐井村漁協では、潜水作業などによってウニを駆除、藻場の再生に成果を上げています。



ウニの食害で生じた「磯焼け」



ウニ駆除によって再生した藻場

干潟の耕うん活動

山口県漁協（山口、嘉川、阿知須地区）

干潟の泥を掘り起こすことで泥中に酸素が供給され、生物が棲みやすい環境が生まれます。山口市樫野川河口の干潟では、漁業者を中心に地道な耕うん作業が行われています。このような取り組みによって、アサリやクルマエビが増え始めています。



人の手による耕うん作業



地道な作業が実を結ぶ

アオサの回収

愛知県竹島漁協

富栄養化によって大量発生したアオサが干潟を覆うと、腐敗し、悪臭だけでなく、生物への影響が懸念されることから漁業者がアオサの除去活動を行っています。こうした活動によって水質や生物の生息環境の保全に貢献しています。



干潟を覆うアオサを回収する漁業者

ツメタガイ駆除によるアサリ資源の回復

静岡県浜名漁協

ツメタガイは肉食性の巻き貝で、アサリの殻に穴を空けて捕食することから、漁業者は必要に応じて駆除を行い、アサリ資源の豊かな干潟を維持しています。



干潟からツメタガイを集める漁業者と回収されたツメタガイ



アサリ稚貝の拡散・移植

千葉県木更津漁協



アサリの稚貝をまく漁業者

二枚貝の幼生は海中を浮遊し、潮の流れの弱い場所で集中的に着底し、稚貝になります。稚貝が過密状態になるとへい死したり成長が悪くなったりします。そこで、漁業者は、稚貝を干潟全体に均一に拡散することで二枚貝の資源を維持し、生物豊かな干潟を守っています。



豊かな
自然環境
の形成

沿岸域の環境美化・保全

沿岸域の清掃活動

私たちが出す多くのゴミは、自治体を通じ回収されますが、陸上の一部のゴミは河川などを通じて海へと流入したり、海岸に投棄されたりします。さらに、近年では海岸に漂着する外国からのゴミも大きな問題となっており、私たちの生活環境が脅かされています。漁村の人々は、これらのゴミを回収することによって、海辺の環境美化に貢献しています。



海岸の清掃

全国の約9割の漁業地区で海岸の清掃活動が行われています。その清掃距離は年間約6,400kmにも達します。これはわが国の砂浜海岸の総延長に相当します。



漂着するゴミに汚された海岸



海岸清掃の様子（山口県防府市）

海面ごみの回収



網にかかった流木は漁業者がそのまま漁港に持ち帰って処分します（駿河湾）

河川を通じて流れ込んだ流木は、定置網などの漁具に掛かります。掛かった流木を回収し処分することによって、船の航行の障害を防止することにもつながります。



底曳網による海底ゴミの回収

海底にもたくさんのゴミが沈んでいます。底曳網に入るゴミを持ち帰り処分しています。



底曳網漁船で回収された海底のゴミ（岡山県日生町漁協）

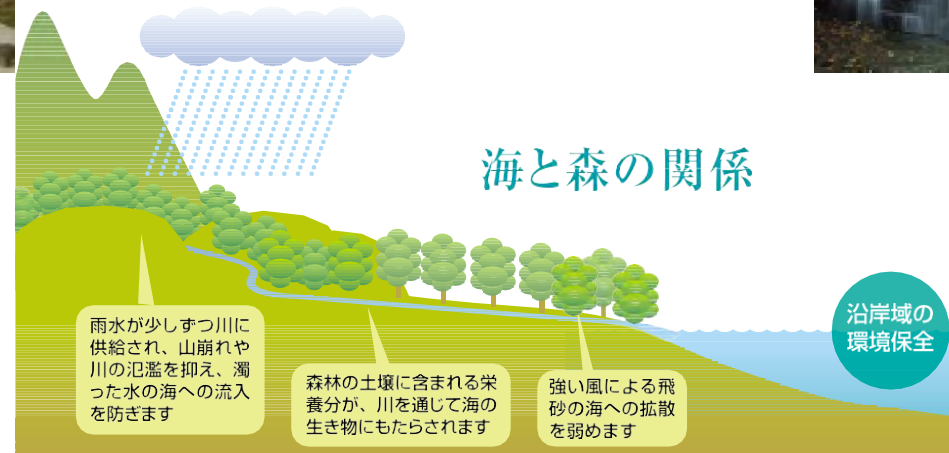
漁村の人々の清掃や植林活動によって沿岸域の環境が美化・保全されています。

漁民の森づくり

漁村の人々は、長い経験の積み重ねから森と海の間には繋がっていると信じてきました。このため、海に深い関わりを持つ森林を「魚つき林」と呼び、大切に守っています。



海と森の関係



沿岸域の
環境保全

100年前の自然の浜を目指して

40年前、北海道の漁業関係者1,400人が“100年かけて100年前の自然の浜”をキャッチフレーズに植林運動を始めました。道内では現在までに60万本以上の木が植えられました。この運動をきっかけとして、漁業者による山への植樹活動は注目を集め、今では「漁民の森づくり」として全国各地に広がっています。



漁協・女性部を中心とした植樹活動（北海道当別町）

60年以上かけて再生した魚つき林

青森県尻屋

海岸の砂丘化による飛砂の影響で、海藻やウニなどの資源が減少したため、明治45年、若い漁業者を中心に植林活動をはじめました。60年以上の歳月を費やし、尻屋崎一帯には壮麗な魚つき林が再生しました。



再生した美しい魚つき林

山林火災で焼失した森の再生

岡山県邑久町漁協

平成8年、落雷によってカキ養殖産地の虫明湾を望む山林の大半が焼失しました。周辺の漁業者は、自主的に植樹活動をはじめ、9年経過した今日、豊かな魚つき林が復活しています。



山火事後



植林後